

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第4号を下記のとおり発表したので送付します。

平成21年度病虫害発生予報第4号

平成21年7月3日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稻	葉いもち	やや遅	並
	穂いもち	並	並
	紋枯病	並	並
	ヒメトビウンカ	—	並
	縞葉枯病	—	やや多
	ツマグロヨコバイ	—	やや少
	萎縮病	—	少
	ニカメイガ	—	並
	セジロウンカ	—	並
	トビイロウンカ	—	並
斑点米カメムシ類	—	やや少	
モ モ	せん孔細菌病	—	少
	灰星病	—	やや少
	モモハモグリガ	やや遅	少
	ナシヒメシンクイ	—	やや多
	ハダニ類	—	やや多
ブドウ	晩腐病	並	やや少
	べと病	遅	やや少
	うどんこ病	やや遅	並
	フタテンヒメヨコバイ	—	並
	チャノコカクモンハマキ	—	少
果樹共通	カメムシ類	—	やや少
キュウリ	べと病	—	並
	うどんこ病	—	並
	褐斑病	—	並
	炭疽病	—	並
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	—	並
トマト	疫病	並	並
	葉かび病	—	やや少
ダイコン	軟腐病	—	並
	キスジノミハムシ	—	並
	コナガ	—	少
野菜共通	ハスモンヨトウ	—	やや少
	アブラムシ類	—	やや少
	モザイク病	—	やや多
キ ク	白さび病	—	並
	ハダニ類	—	やや少
	アブラムシ類	—	やや少

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. 6月22～23日の巡回調査において、本田での葉いもちの発生は認められなかった（同時期における発生圃場率の平年値1.8%）。葉いもちの初発生時期は平年（6月5半旬）よりもやや遅い。

ウ. BLASTAM-メッシュ岡山版（以下、ブラスタム）による葉いもちの感染好適条件が、6月21日、23日、29日および7月1日に北部・中部地帯で広域的に出現した。これらの地域でいもち病対象薬剤の箱処理を実施していない圃場や残効が切れている圃場では、7月1～2半旬に広域的に初発生する可能性がある。ブラスタムの最新結果は下表のとおりである。

エ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 補植用の苗は、伝染源となるので処分する。

イ. 発生圃場では直ちに登録薬剤を施用する。薬剤は箱処理剤と同系統のものを避ける。未発生圃場でも罹病性品種では病勢の進展が速いので、早期発見、早期防除に努める。

ウ. 耐病性の弱い品種（コシヒカリ、あきたこまち、ヒノヒカリ、朝日）が広く作付けされている。

エ. 本病は、曇天が続き降雨日数が多い場合に発病が助長される。梅雨時期であり、今後の気象変動によっては発生が増加する可能性があるため注意する。

表 アメダスデータから推測される葉いもちの感染好適条件の出現状況

(BLASTAMメッシュ岡山版)

地帯区分	北部地帯					中部地帯					南部地帯				
	上長田	千屋	奈義	古町	新見	久世	津山	福渡	和気	高梁	岡山	虫明	倉敷	笠岡	玉野
月・日															
6. 15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	-	-	-	△	●	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-
17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	-	●
18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21	-	●	●	-	-	●	●	-	-	●	-	-	-	●	-
22	-	●	-	-	●	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●
23	-	●	●	-	-	●	●	●	●	-	-	-	-	-	-
24	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●
25	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29	-	-	●	-	●	-	-	●	●	●	-	-	-	-	-
31	●	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	●	-	●	●
7. 1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	-	●	-	-	-

●：感染好適条件 △：準感染好適条件 -：いもち病発生の好適条件は現れなかった

(2) 穂いもち（極早生種対象）

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

- ア. 早生品種を中心にイネの生育ステージはほぼ平年並で推移している。
- イ. 6月22～23日の巡回調査では、極早生種栽培地帯（主に県北部、中部）における葉いもちの発生はまだ認めていない。
- ウ. プラストムによる葉いもちの感染好適条件の出現（前述）により7月1～2半旬に広域的に初発生する可能性がある。
- エ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。しかし、梅雨時期であり、曇天が続き降雨日数が多い場合には発病が助長されるので注意する。

(3) 紋枯病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

- ア. 6月22～23日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。
- イ. イネの茎数は早生種を中心に概ね平年並である。
- ウ. 前年の発生は平年並であったため、越冬菌密度も平年並と考えられる。
- エ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

(4) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

ヒメトビウンカ（第2世代幼虫）

発生量 並

縞葉枯病

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 6月22～23日の巡回調査におけるすくい取り調査（20回振り）では、成幼虫の発生量は1.8頭で平年（1.4頭）並であった。
- イ. 6月下旬の県予察圃場におけるすくい取り調査では、ヒメトビウンカの発生量は4頭で平年（7.8頭）よりやや少なかった。
- ウ. 県予察圃場におけるイネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率は6.5%であり、平成15年までの過去10年間の平均保毒虫率1.1%と比較してやや高かった。

(5) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

ツマグロヨコバイ（第2世代幼虫）

発生量 やや少

萎縮病

発生量 少

- ア. 赤磐市の予察灯における6月の飛来数は14頭で、平年（27.0頭）より少なかった。
- イ. 6月下旬の県予察圃場におけるすくい取り調査では、ツマグロヨコバイの発生量は6.5頭で平年（44.9頭）より少なかった。
- ウ. 6月22～23日の巡回調査におけるすくい取り調査（20回振り）では、成幼虫の

- 発生量は0.5頭で平年（0.4頭）並であった。
- エ. 萎縮病は平年同様発生を認めていない。
- (6) ニカメイガ（第1世代幼虫）
- 予報内容
発生量 並
- 予報の根拠
ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて6月までに誘殺を認めなかった。
- (7) セジロウンカ
- 予報内容
発生量 並
- 予報の根拠
ア. 赤磐市の予察灯における6月の飛来数は2頭で平年（5.3頭）よりやや少なかった。
イ. 6月22～23日の巡回調査におけるすくい取り調査（20回振り）では、成虫の発生量は1.6頭で平年（0.9頭）よりやや多かった。
- (8) トビイロウンカ
- 予報内容
発生量 並
- 予報の根拠
ア. 赤磐市及び津山市の予察灯において6月までに飛来を認めなかった。
- (9) 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）
- 予報内容
発生量 やや少
- 予報の根拠
ア. アカスジカスミカメの予察灯における6月の飛来数は、津山市では15頭で平年（97.0頭）より少なく、赤磐市では27頭で平年（53.7頭）より少なかった。
イ. 6月22～23日の巡回調査における県北部イネ科牧草地のすくい取り調査（20回振り）では、アカスジカスミカメの発生量は1地点当たり16.6頭で平年（23.2頭）よりやや少なかった。
ウ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

2 果 樹

(モ モ)

(1) せん孔細菌病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 6月19日の巡回調査では発生を認めず、平年（発生圃場率 26.9%）より少発生であった。

イ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。しかし、風雨によって発病が助長されるので、今後の気象に注意する。

(2) 灰星病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 6月19日の巡回調査では、一般圃場において果実での発生は認めていない。

イ. 県予察圃場における幼果の発病果率は4.7%で、平年（6.8%）より低かった。

ウ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

(3) モモハモグリガ (第3世代幼虫)

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける第2世代成虫の初飛来日は6月13日であり、発生時期は平年(6月10日)よりやや遅かった。

イ. 6月の誘殺数は31頭で平年(127.2頭)より少なかった。

ウ. 6月19、22～23日の巡回調査では発生を認めず、平年(2.5%)より低かった。

(4) ナシヒメシンクイ (第3世代幼虫)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける6月の誘殺数は21頭で平年(27.5頭)並であった。

イ. 6月19、22～23日の巡回調査における新梢被害の発生圃場率は40.5%であり、平年(21.0%)より高かったが、被害程度は軽微であった。

(5) ハダニ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 6月19、22～23日の巡回調査における被害発生圃場率は29.7%で、平年(9.1%)より高かったが、発生は一部地域に限られた。

イ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(ブドウ)

(1) 晩腐病

予報内容

発生時期 並

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 6月の降水量は全般的に平年より少なかったことから、幼果の感染も平年より少ないと考えられる。

イ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

(2) ベと病

予報内容

発生時期 遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場(ネオ・マスカット)における初発生は6月16日で平年(6月6日)よりも遅かった。

イ. 6月19日の巡回調査では、一般圃場のトンネル被覆栽培において発生を確認していない。

ウ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。しかし、梅雨時期の連続降雨により急に病斑が進展する可能性があるので注意する。

(3) うどんこ病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. 6月19日の巡回調査では、一般圃場のトンネル被覆栽培において発生を確認していない。

イ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

(4) フタテンヒメヨコバイ (第2世代幼虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 6月19、22～23日の巡回調査における被害発生圃場率は6.7%で、平年(0.6%)よりやや高かったが、被害程度は軽微であった。

(5) チャノコカクモンハマキ (第2世代幼虫)

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける6月の誘殺数は2頭と平年(13.7頭)より少なかった。

(果樹共通)

(1) カメムシ類 (チャバネカメムシ)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 予察灯におけるチャバネアオカメムシの6月の誘殺数は、赤磐市で59頭と平年(96.9頭)よりやや少なく、津山市で25頭と平年(48.7頭)より少なかった。

3. 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場(5月12日播種)では、初発生が6月22日で平年(6月15日)より遅く、発生量はやや少なかった。

イ. 6月25～26日の巡回調査によると、一般圃場での発生量は平年並であった。

ウ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場(5月12日播種)では発生を認めていない。

イ. 6月25～26日の巡回調査によると、一般圃場での発生量は平年並であった。

ウ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場(5月12日播種)では発生を認めていない。

イ. 6月25～26日の巡回調査によると、一般圃場での発生は平年並であった。

ウ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

(4) 炭疽病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場(5月12日播種)では発生を認めていない。

イ. 6月25～26日の巡回調査によると、一般圃場での発生は平年並であった。

ウ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

(キュウリ、ナス)

(1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 6月25～26日の巡回調査によると、露地および施設栽培のナス、キュウリでの発生量は平年並～やや少であった。

イ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場(5月12日定植)では発生を認めていない。

イ. 6月25～26日の巡回調査では、一般圃場での発生は平年同様認めなかった。

ウ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量ともに平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(2) 葉かび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場(5月12日定植)では発生を認めていない。

イ. 6月25～26日の巡回調査によると、一般圃場での発生量は平年よりやや少なかった。

ウ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(アブラナ科野菜)

(1) ダイコン軟腐病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特

に発生を助長する条件ではない。

(2) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(3) コナガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 6月の県予察圃場のフェロモントラップへの誘殺数は、赤磐市では0頭で平年(98.0頭)より少なく、津山市でも0頭で平年(25.5頭)より少なかった。

イ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(野菜共通)

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 6月の県予察圃場のフェロモントラップへの誘殺数は、赤磐市では37頭で平年(130.2頭)より少なかった。津山市でも26頭で平年(60.2頭)より少なかったが、6月6半旬の誘殺数に増加傾向がみられた。

イ. 6月25～26日の巡回調査では、一般圃場での発生は認められなかった。

ウ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(2) アブラムシ類とアブラムシ伝搬のモザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 やや少
モザイク病 やや多

予報の根拠

ア. 6月の県予察圃場の黄色水盤への飛来数は、赤磐市では187頭で平年(300.0頭)よりやや少なく、津山市では540頭で平年(1308.1頭)より少なかった。また、赤磐市の県予察圃場における6月下旬のキュウリでの発生量は平年よりやや少なく、トマトでは平年より多かった。

イ. 6月25～26日の巡回調査によると、一般圃場でのアブラムシ類の発生量は平年よりやや少なかった。

ウ. 一般圃場および県予察圃場におけるキュウリ、トマト等でのモザイク病の発生量は平年より多かった。

エ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 発病株は伝染源となるので早めに除去し、アブラムシの防除を行う。

4. 花 き

(キ ク)

(1) 白さび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 6月25～26日の巡回調査によると、一般圃場での発生量は平年並であった。
- イ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(2) ハダニ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 6月25～26日の巡回調査によると、一般圃場での発生量は平年よりやや少なかった。
- イ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(3) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 6月の県予察圃場の黄色水盤への飛来数は、赤磐市では187頭で平年(300.0頭)よりやや少なく、津山市では540頭で平年(1308.1頭)より少なかった。
- イ. 6月25～26日の巡回調査によると、一般圃場でのアブラムシ類の発生量は平年より少なかった。
- ウ. 6月26日の季節予報によると、7月の気温、降水量は平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

病虫害発生予察情報テレホンサービス

岡山県病虫害防除所では、主要病虫害の発生状況や防除に関する情報を迅速にお知らせするために、テレホンサービスを実施しております。気軽にご利用ください。

電話：086-955-2224

携帯電話用アドレスの公開

予報、注意報、警報については携帯電話用の情報（簡易版）を公開しています。

アドレスは

<http://www.pref.okayama.jp/norin/nousou/kei/top.htm>



QRコード